

天声人語

広島市内を歩いた。カープの四半世紀ぶりのリーグ優勝が目前に迫り、高揚感が街を包む。デパートにはカープの名を冠した焼酎やせんべいが並ぶ。青を基調にした外装のローソンも、本拠マツダスタジアムの近くでは、チームカラーの赤に替えて数年前から営業している▼チームが誕生したのは1949（昭和24）年。原爆投下で「草木も生えない」とさえ言われた土地で、住民を大いに勇気づけた。親会社を持たない「市民球団」として発足した▼しかし初年度から資金難でリーグ加盟金の支払いに困り、選手の給料も遅配した。雨で試合が流れると入場料が入らず、寮での夕食に選手たちは一皿のおかずを分け合った。初シーズンは最下位で終わつた▼すぐに解散話が持ち上がる。球団幹部の集まる旅館へファンが押しかけた。「わしらのカープをなくすな」。球団は辛うじて生きのびたと「カープ50年 夢を追つて」（中国新聞社編）にある▼長きにわたる低迷期も市民は球団を見捨てなかつた。黒田博樹投手は、「広島は僕を必要としてくれる」「僕も選手として成長できると考えた」と語った。彼の選択はファンに限らず広島の人々を奮い立たせた▼試合は連日大入り満員。得点のたび大合唱が球場を揺らす。「宮島さんの神主がおみくじ引いて申すには今日もカープは勝ち勝ち勝ち勝ち」。安芸の宮島にあいう。陽気な歌声に一夜酔いしれた。

2016・9・8